

## とをが（半）解散について

大切なことを、大切にしようことを、大切にします。「とをが」の活動コンセプトであるこのフレーズ。これは、私達が集まり何かしらを成していく理由でありました。今、まさに同じ理由から、2022年度をもって「とをが」を（半）解散する運びとなりました。心よりの御礼とともに皆様にご報告申し上げます。

「とをが」は教育系NPOのもとに集まった仲間たちと、2019年より自分たちが理想とする拠点を作ろうと、改装から自分たちの手で手掛けるところから始まりました。当初の一年間は、無料のオープンスペースとして、地域の子供たちの居場所として開放してきました。その後、メンバーの一人である小学校で教員として働く渡辺くんの退職を一つのきっかけとして、有料のワークショップスペースとしての運営に切り替えを行い、今日に至ります。ある意味でいうと、無料のスペースから有料のアトリエという「習い事」へという大きな転換に関しては、持続可能な運用を趣旨としつつも、気軽に立ち寄ってくれていた子どもたちの気持を考えると、少なからずの葛藤があったことも事実です。にもかかわらず、ご理解やご支援を多くの方からいただきました。重ねて御礼申し上げます。

大切なことを、大切にしようことを、大切にします。では、大切なこととは何か。「とをが」は、それを考えつづけ実践しつづける活動でありたいというものでした。想像し創造すること。試行錯誤すること。命に近いものに触れること。それは挙げればきりがありません。ともあれやっばり「生きててよかった！」と思えること。そう振り返ることができること。じんわりと静かに、ときには激しく躍動的に。感じ方は様々なあり方があるかと思いますが、「とをが」の活動はそういった気持ちに向かっていくものでした。

子どもたち向けのアトリエとともに、2022年4月からは、小金井市観光まちおこし協会が運営する「わくわく農園」での「こども農園」の活動も広がりました。渡辺くんのかねてからの願いである「子どもたちと村をつくりたい」という想いを実現するための展開でありました。多くの構想をメンバーや様々な方々との助け合いのなかで様々な実現をしてきましたが、彼の心境の変化が次第に大きくなっていきました。それが、「とをが」の（半）解散の背景になります。というのも、「自由」や「本物」といったものへの志向はときに危険とも隣り合わせになります。また「個別最適化」といった子どもたち一人ひとりとしっかりと向き合っていくことは、ときに物理的な制約を受けることもあります。まさに「大切なことを、大切にしようことを、大切にします」ための方法というものは、「自由と安全」「個人と全体」といった一見矛盾するものの綱引きのようなことにもなります。アクセルとブレーキを同時に踏むような曲芸のようなものが求められる瞬間もあります。であるからこそ、ここでもそれぞれがそれぞれに様々な葛藤を感じながら多くの議論に時間を費やしてきました。そしてそこには、紆余曲折ありながらも「農業や畑へ

の想いが募りこども農園の活動に専念するためにアトリエを今年度限りとしたい」「今後は自分自身の力で切り拓いてみたい」という結論に至る渡辺くんの姿がありました。エネルギーを使うべきは、議論や話し合いや対話であり、また次に進むための一歩のためであるべきだと考えています。そこで、メンバーそれぞれが真摯にそれぞれの気持ちを受け止め、またしっかりと応援し合うためにも、これまで走り続けてきた「とをが」としての活動を一度立ち止まるということに致しました。アトリエの先生として活動をしてきた渡辺くんの後任をそれぞれが、或いは新しいメンバーの参画を頂き努めることで、アトリエをそのままに継続することも議論や調整を重ねましたが、なし崩し的に継続をしていくのではなく、しっかりと今後のあるべき姿を考える時間を頂戴できればと考えています。具体的にはこれまでと想いを同じにしながらも、それを叶える方法として、それぞれが得意とする領域での実践を起こしていくことを想定しています。それらの計画に関しては、追ってSNSやWEBサイトでお知らせを致します。一方で、彼が専念をしたいと言う「こども農園」の運営母体である小金井市観光まちおこし協会は、「とをが」の共同主宰者である熊井が長らくプロジェクトに参画をしている地域振興組織でもありますし、現在、種生は同協会の職員でもあります。地域で活動をするということは、様々な人間関係が交差するという意味もありますし、それこそが重要であろうとも感じます。また、そもそも「とをが」は、独立した個人が寄り合って助け合いながら進めてきたプロジェクトでもあります。これからもそれぞれが活動を進めていくという意味では、変わるようで変わらないようで変わるといったニュアンスもあります。なので、「解散」ではなく「(半)解散」です。

今年度までの活動にまずは専念し、2023年4月以降の「とをが」の活動に関しては、改めてご案内をさせていただく予定です。アトリエにお子様を預けてくださっていた皆様や支えてくださった方々には大変心苦しく思いますが、何卒ご容赦くださいますと幸いです。



2023年1月8日

とをが一同 渡辺裕樹、根津あさ子、種生芽実、熊井晃史

# とをがに来てくれていたみなさんへ

たのしいな、うれしいな、やすらぐな。

みなさんのそのような気持ちが生まれる場所になったらな。

そのような気持ちで「とをが」の活動をすすめてきましたが、

みなさんのせんせいだった、わたなべくんが、もうひとふんばりして、

こどもたちがのびのびできる場所を別のやり方でつくろうとうごきはじめました。

とをがとしても、それを引き続き応援したい気持ちです。

そのため、つぎの3月で「アトリエ」の活動はおしまいになります。

でも、とをがの場所は、これからもつづけていきます。

(どのようなかたちで、ひらくことができるかは今じゅんぴちゅうです)

さびしいな。ごめんなさい。という気持ちもありますが、

だからこそ、もっともっとみなさんによいものをお見せできるように

がんばっていきたいと思います。

まずはきちんとおつたえしたい。

そのような気持ちで、とをがのメンバーでこのお手紙をまとめました。

3月まで、まだ時間はたくさんあります。

そこで、たのしいことをたくさんしましょうね。

また、お話できることを楽しみにしています。



2023年1月8日

とをが一同 わたなべゆうき、ねづあさこ、たねおいめぐみ、くまいあきふみ